

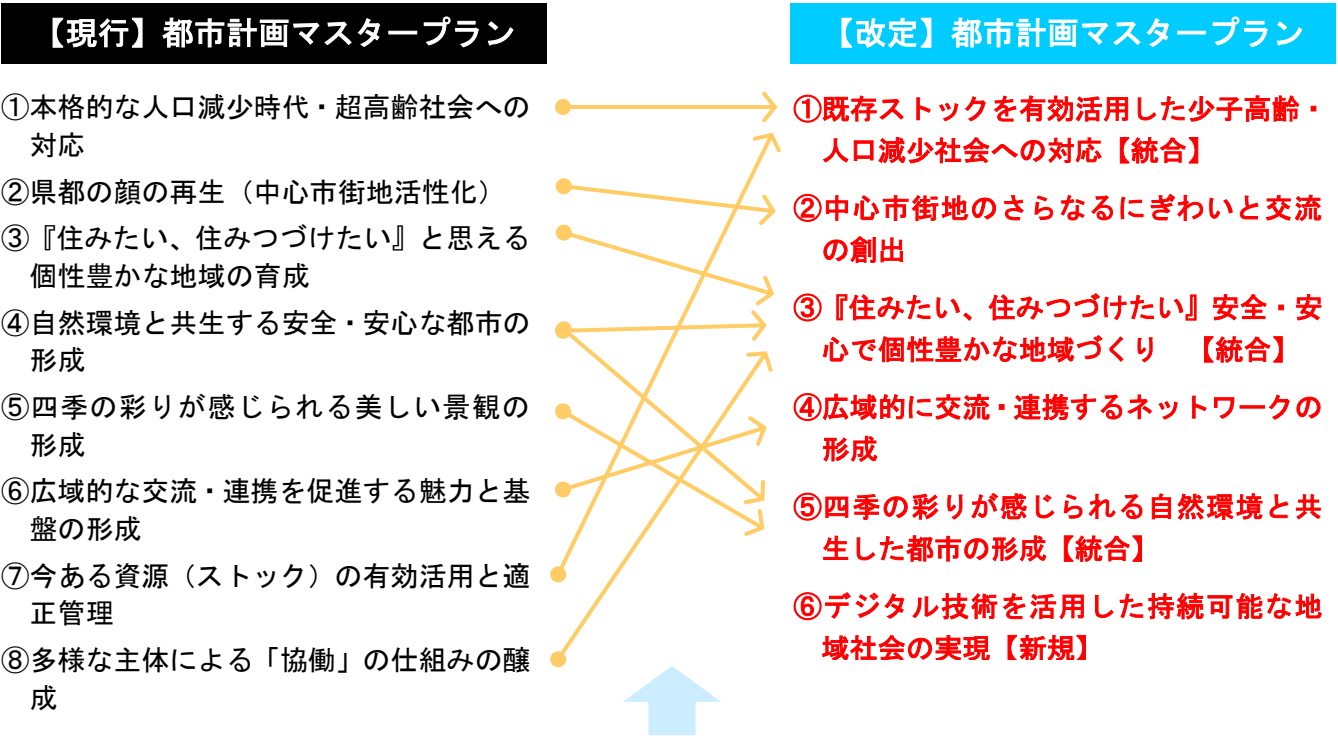
第2節 都市づくりの課題と対応

1. 都市づくりの課題の見直し

都市づくりの課題について、社会情勢の変化や都市づくりに関する法制度の改正などの背景をはじめ、都市の現状と動向、市民意識・意向調査（アンケート）、現行都市計画マスタープランの評価、人口・世帯数の将来推計などを踏まえ、以下のとおり見直します。

少子高齢・人口減少社会の進展をはじめ、北陸新幹線などの高速交通の整備、自然災害の頻発・激甚化、デジタル化の進展といった社会情勢に対応するため、これまで設定していた8つの課題は改定マスタープランにおいても引き継ぎながら、その対応をより強化していくこととし、社会の情勢や動向に沿った都市づくりの課題へ再整理していくこととしました。

【課題の見直し】



社会情勢の変化

- ◆少子高齢・人口減少社会の進展
- ◆気候変動に伴う自然災害の頻発・激甚化、様々な災害への対応
- ◆価値観や働き方、暮らしのニーズの多様化
- ◆脱炭素社会の実現、SDGsの推進
- ◆AI・IoTなどの技術革新によるデジタル化の進展
- ◆高速交通の整備（北陸新幹線、中部縦貫自動車道など）

など

都市づくりに関する法制度の改正など

- 都市再生特別措置法、都市計画法、建築基準法の一括改正（R2.6）
- 地域公共交通活性化再生法改正（H26.5、R2.6、R5.4）
- 空家等対策の推進に関する特別措置法の制定、改正（H26.11、R5.6）
- 国土強靱化基本計画の見直し（R5.7）

2. 改定都市計画マスタープランにおける課題と対応

① 既存ストックを有効活用した少子高齢・人口減少社会への対応

○現況

令和2年国勢調査における本市の人口は262,328人であり、平成7年をピークに減少が続いています。また、同調査によると、15歳未満の年少人口の割合は12.8%、65歳以上の老年人口の割合は29.4%となっており、それぞれ一貫して減少、増加が続いています。

都市基盤については、市街化区域を中心として、道路や公園などが計画的に整備されており、小学校や中学校、公民館、福祉施設などの公共公益施設が立地し、鉄道やバスなどの公共交通ネットワークが形成されています。一方、農山漁村地域では、人口の流出や地域産業の担い手不足などの問題も見られますが、豊かな自然環境のもと、固有の歴史・文化資源や風土・風習などに加え、地域で支え合う仕組みが残っています。

移動を支える環境としては、北陸新幹線福井駅を中心として、ハピラインふくい、えちぜん鉄道、福井鉄道、JR越美北線などの鉄軌道やバスが本市の市街地と農山漁村地域、周辺市町を繋ぐ役割を担っています。

○課題と対応

少子高齢・人口減少社会の進展は、市街地の低密度化、地域の魅力や活力の低下、自治体の厳しい財政状況、都市基盤の維持管理コストの増大、日常生活サービスや公共交通の利便性低下につながります。こうした状況では、自ら移動手段を持たない高齢者や子ども、障がい者などにとって暮らしにくい都市になるおそれがあります。

したがって、都市機能の集約や日常的な生活サービス施設の維持・誘導による利便性の向上を図り、それらを既存ストックである公共交通や新たな交通手段で繋ぐことにより、歩いて暮らせるコンパクト・プラス・ネットワーク型の都市づくりを推進していく必要があります。そのためには、民間の強みを生かした官民連携による都市基盤の維持管理・更新や空き地・空き家の利活用が必要です。

また、地域活力が低下し、自治会などの地縁団体が十分に機能しなくなることが予測されるため、その対応としては、地域の総合力を結集し、都市の活力や個性が発揮されるよう、これまで以上に地域間の交流を育んでいくなどして歯止めをかけていく必要があります。特に、農山漁村地域において、優れた自然環境や集落景観を維持・保全していくための都市部との交流・連携に向けた継続的な取り組みが必要です。

【キーワード】居住環境の整備、公共交通機関の充実、コンパクト・プラス・ネットワーク

ユニバーサルデザインの推進、交流の拠点づくり、地域の総合力の結集

地域間の交流・連携、PPP/PFI、公共施設の長寿命化、都市機能誘導区域

居住誘導区域・居住環境再構築区域、先行的な都市基盤ストックの有効活用

空き地・空き家の有効活用、まちなか居住の推進、公共交通の戦略的活用

「地域拠点」の形成、エリアマネジメント、限界集落対策

② 中心市街地のさらなるにぎわいと交流の創出

○現況

北陸新幹線福井駅周辺の中心市街地は、市街地形成の歴史の変遷からも重要な場所であるとともに、現在でも交通結節の要衝であり、商業や業務など、多くの都市機能が集積立地する県都の中心となる重要な空間です。

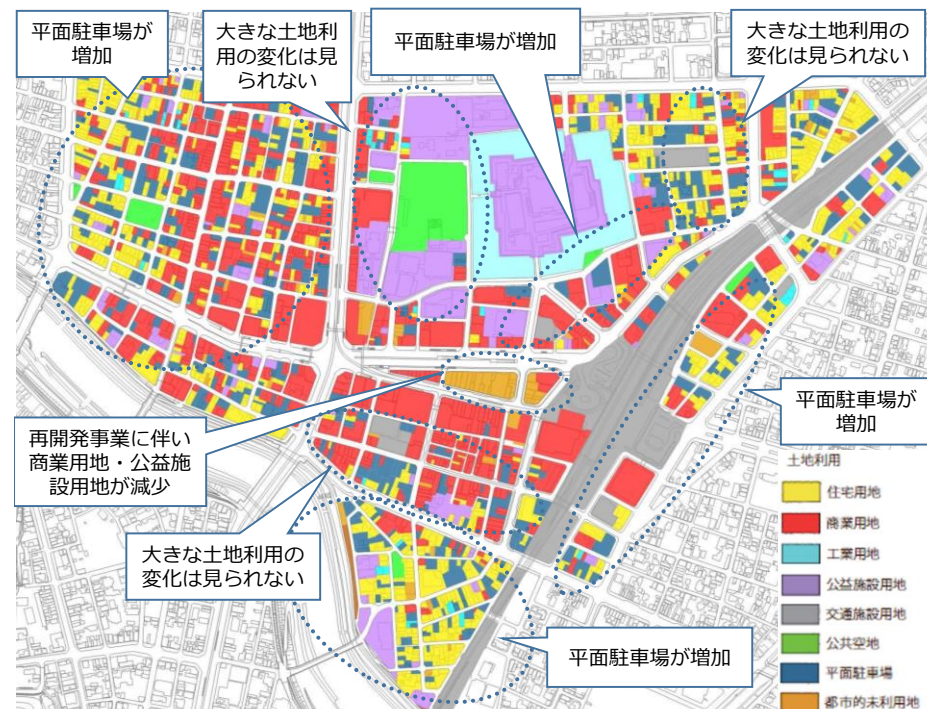
これまで、再開発事業の推進や公共駐車場の整備、都心居住の推進、**福井鉄道福武線の福井駅西口広場への延伸やえちぜん鉄道三国芦原線との相互乗り入れ**など、中心市街地の活性化に向けた様々な取り組みを進めてきました。特に、**福井駅周辺では、土地区画整理事業による都市基盤整備や連続立体交差事業による東西交通の利便性が向上しました。**現在は、民間による市街地の再整備が進められています。

また、大規模なマンション建設などにより、一部の地域では人口の増加がみられます。加えて、福井駅西口再開発事業によりハピリンがオープンし、新たな賑わいが創出されています。しかし、中心市街地の店舗数や歩行者交通量の増加には時間を要しています。そのため、今後の周辺へのさらなる波及効果が求められています。

○課題と対応

本市は、北陸新幹線福井開業に伴い、県都としてさらに重要な役割を担うこととなるため、これまでの中心市街地活性化への取り組みを発展的に継続するとともに、**さらなる中心市街地の魅力づくりを推進していくことが求められています。**

そのためには、既存の都市機能ストックを活かしながら市民と行政がともに創意工夫して行う、質の高い魅力的な県都の顔づくりや**市民や企業、民間団体などの主体的なまちづくり活動への支援など、さらなるにぎわいと交流づくりが必要です。**新たな都市の魅力を高めるため、**点在する平面駐車場などの低未利用地の有効活用、道路・河川・公園などの公共空間を活用したにぎわいづくり、福井城址を中心とした魅力ある景観づくりなど、回遊性のある、にぎわいにあふれたまちづくりが必要です。**



■中心市街地の土地利用 ※都市計画基礎調査（H28 と R2 調査との比較）

【キーワード】商業の活性化、**低未利用地の有効活用、都市のリノベーション**

都市機能誘導区域、居住誘導区域・居住環境再構築区域、交通結節機能の強化

再開発の推進、ウォーカブルなまちづくり、ミズベリング・かわまちづくり

歴史のみえるまちづくりの推進、路面電車を活かしたまちづくりの推進

公共交通・都市計画制度の戦略的活用、市民が関わる機会づくり

③ 『住みたい、住みつづけたい』安全・安心で個性豊かな地域づくり

○現況

本市は、市民が積極的にまちづくりに参加できる機会をつくるなど、都市計画に限らずさまざまな分野において、市民と行政が連携・協働する**市民参画のまちづくり**に取り組んできた結果、**住みよさに関する各種調査において高い評価を得ています。**

また、地震、豪雨、大雪などの自然災害に見舞われ、市民が力を合わせ大きな苦難を乗り越えてきた経験があります。市民意識・意向調査（アンケート）においても、自分たちが暮らす地区において、特に対策が必要な取り組みとして、自然災害に対する安全対策が最も高い結果となっています。**防災・減災対策に向けた取り組みとして、ハード面では避難所として活用される小中学校の校舎や体育館の耐震化などを進めてきました。**また、ソフト面では自主防災組織の結成や育成などに取り組んでいます。

○課題と対応

協働のまちづくりは、少子高齢・人口減少社会が進展する中、持続可能な地域社会を構築する上で重要な役割を担います。「住みたい、住みつづけたい」個性豊かで住みよい地域づくりを進めていくためには、住民の地域への誇りや愛着が不可欠です。**多様な価値観を認め合いながら、市民の地域コミュニティや身近なまちづくりへの参画を育むため、「身近なまちづくり推進条例」を活用した生活環境をより良くするためのまちづくり計画や市民と行政をはじめとする多様な主体が協働・連携できる仕組みづくりが必要です。**

さらに、自然災害の頻発・激甚化に対応するため、**市民や事業者とともに自助・共助の理念に基づき、ハード・ソフト両面で、市民の生命や財産、快適な暮らしを守るための取り組みを推進し、安全・安心な都市を形成していくことが必要です。**

【キーワード】公民館区ごとの取り組みの推進（地域の未来づくり推進事業など）

市民のまちづくりに対する意識づくり、地域間の交流・連携

身近なまちづくり推進条例の活用推進、持続可能な発展

防災・減災に向けた主体的な取り組みの推進、**流域治水**

自然災害の頻発・激甚化、国土強靱化、立地適正化計画

市民と行政の役割の明確化、多様な主体による「協働」の仕組みづくり

○現況

また、北陸圏を中心とする広域連携社会を形成するため、国土形成計画では北陸圏は豊かで多様な自然、魅力ある都市と農山漁村及び活力ある産業が共生した、圏域内の連携と国内外との交流により我が国の持続的な発展を先導する地域に位置付けられています。

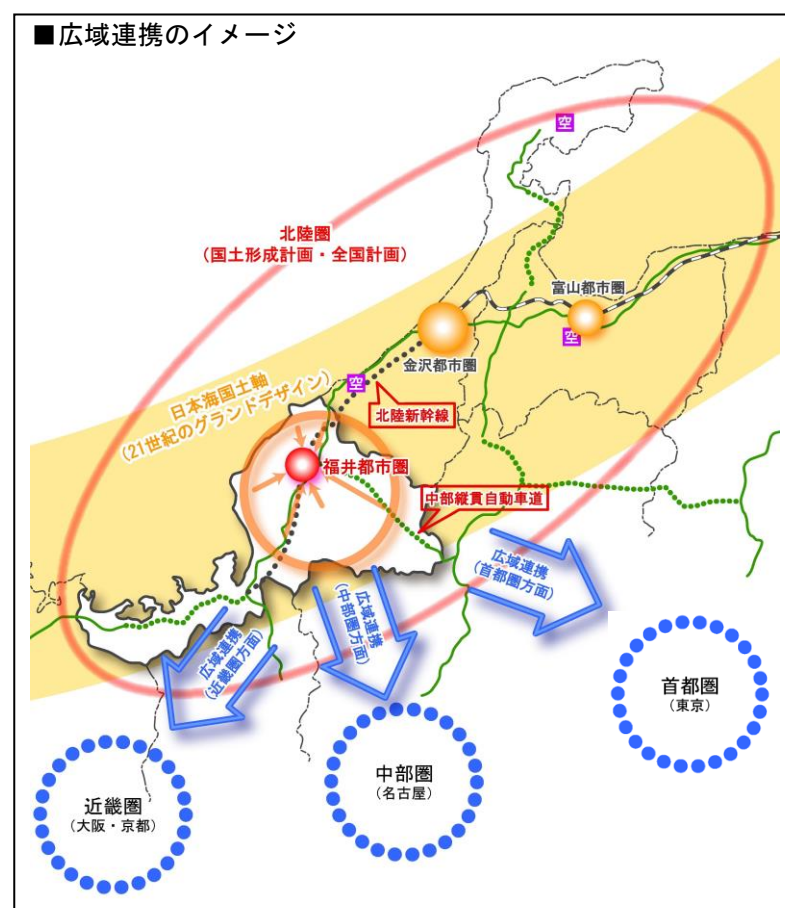
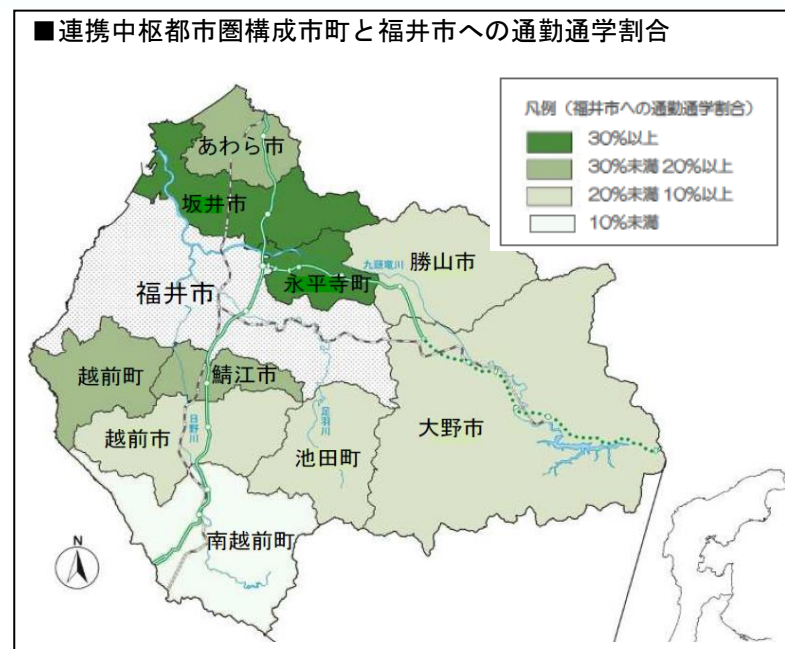
○課題と対応

また、その効果を最大限に高めるため、デジタル技術を活かした、利用しやすい地域交通との連携・充実が必要です。

本市固有の自然、歴史や文化、産業などを礎として、都市の個性や魅力づくりとともに、交流人口・関係人口の創出や地方移住・多地域居住などの多様化するライフスタイルや働き方、価値観に対応した環境整備など、都市の受け皿づくりとして広域連携を支える基盤を形成していくことが必要です。

【キーワード】 連携を支える交通体系（北陸新幹線大阪延伸、中部縦貫自動車道、二次交通）

中核市、ふくい嶺北連携中枢都市圏、観光まちづくり、都市機能の高度化・集積化
ライフスタイルの多様化・広域化への対応、都市の個性と魅力づくり
都市力の強化、地域間の交流・連携、交流人口・関係人口



○現況

さらに、幅広い地域活動などを通じて、地域への誇りや愛着の醸成に取り組んでおり、身近な地域づくりや緑化活動などをテーマとした自主的な市民団体の活動により、豊かな自然環境と共生したまちづくりが進められています。

また、地球温暖化の進行により、気候変動に伴う自然災害が頻発・激甚化しています。本市では、「第4次福井市環境基本計画」に基づき、2050年に二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることを目指し、自然と共生した都市づくりを進めています。

○課題と対応

今後、交流人口の拡大に向けて大切となる地域への誇りや愛着、都市の魅力や風格を高めていくためには、美しい景観形成への取り組みが不可欠です。景観が市民共通の資産であることを認識し、市民が誇りをもっていつまでも住み続けたいと思えるような“心地よい”景観（まち）を実現するためにも、四季の彩りや固有の歴史、文化の雰囲気を感じられる景観づくりが必要です。

また、恵まれた貴重な自然環境を見つめ直すとともに、**脱炭素社会の実現、グリーンインフラなど、自然環境と共生した都市づくりを推進していくことが必要です。**

【キーワード】公民館区ごとの取り組みの推進（地域の未来づくり推進事業など）

市民のまちづくりに対する意識づくり、地域間の交流・連携

水と緑のネットワーク整備事業の推進、福井らしい景観づくりの推進

地域間の交流・連携、景観に対する意識啓発、脱炭素社会

グリーンインフラ

⑥ デジタル技術を活用した持続可能な地域社会の実現

○現況

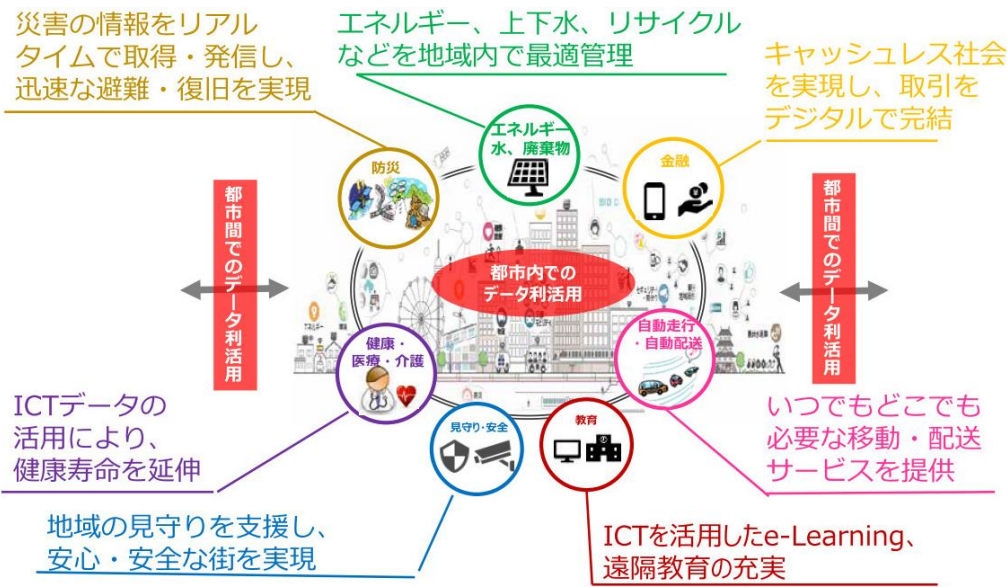
本市は、少子高齢・人口減少社会の進展に対応するため、デジタル技術を活用した様々な社会的課題の解決や持続可能でより豊かな社会の実現を目指すデジタルトランスフォーメーション（DX）の取り組みを進めています。

これまで、行政手続の電子化などによる市民サービスの向上、様々な媒体での情報発信、統計調査・ビックデータの活用など、デジタル技術を活用した豊かさを実感できるまちに向けた取り組みを進めてきました。また、市民や観光客が公共交通機関で移動しやすい環境づくりに向けた、県や近隣市町と連携した MaaS アプリやキャッシュレス決済のほか、中小企業の生産性向上に向けたデジタル技術の活用推進、農業をはじめとする第一次産業における効率化に向けたデジタル技術の導入などの取り組みも進めています。

○課題と対応

本市は、国が目指す新技術を活用したスマートシティの実現に向け、より一層 DX の取り組みを推進していくことが必要です。便利で快適な交通ネットワークづくり、デジタル地域通貨を活用したまちなかの商業活性化、安全・安心に暮らせる防災・減災対策、地球環境に貢献する再生可能エネルギーの普及拡大、学校における ICT 環境整備の促進、働きやすい環境づくりや生産性の向上など、生活の質の向上を目指し、デジタル技術を活用した持続可能な地域社会への取り組みが必要です。

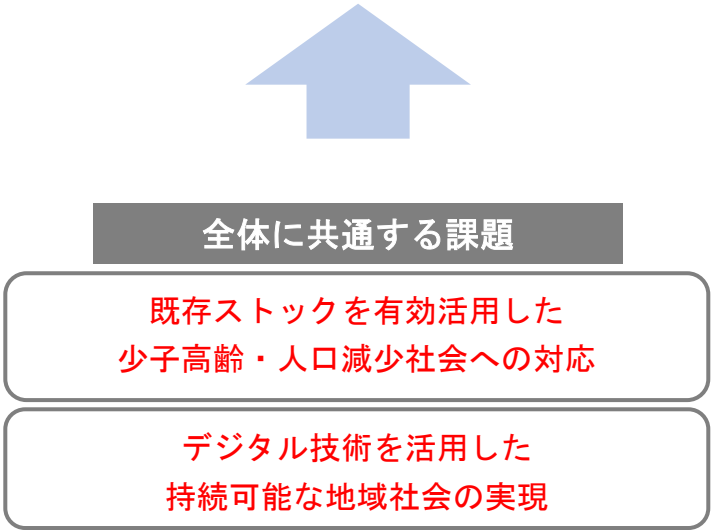
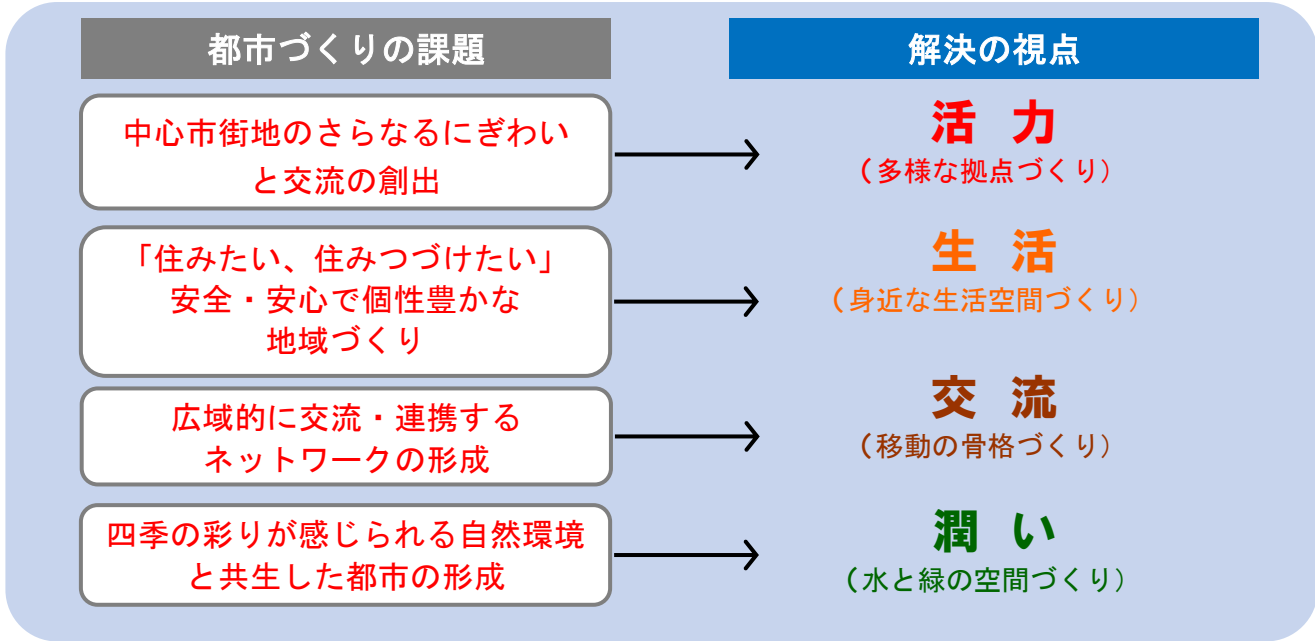
【キーワード】 新技術、技術革新（AI、IoT）、Society5.0、DX の推進、ICT 技術の活用
MaaS、中小企業の生産性向上、市民サービスの向上
ビッグデータ、スマートシティ、デジタルツイン



資料：スマートシティガイドブック（内閣府）

【都市づくりの課題を解決する視点】

都市づくりの課題を解決するため、「既存ストックを有効活用した少子高齢・人口減少社会への対応」などの全体に共通する課題に配慮しつつ、個別の都市づくりの課題については現行計画の視点を踏まえて「活力」「生活」「交流」「潤い」の4つの視点から解決していきます。



第2章 都市づくりの目標

第1節 都市づくりの理念

本市は、市街地周辺から山間部や海岸部に掛けて風光明媚な自然環境に恵まれ、北陸地方特有の変化に富んだ四季の移ろいと共生・調和しながら、地域で支えあう暮らしや習慣が現在にも受け継がれています。

さらに、**周辺部の豊かな自然環境と調和を図りながら、道路や河川・公園などの都市基盤が計画的に整備され、良好な住環境が形成されています。**しかし、**少子高齢・人口減少社会の進展をはじめ、中心市街地における低未利用地の増加、公共交通利用者の減少など、様々な都市問題が顕在化しています。**このような状況が続くと、人口密度が低く、薄く広がった都市構造となり、環境に負荷を与えるだけでなく、**インフラ維持のための費用負担が増加したり、公共交通サービスの維持が困難になるなど、暮らしにくいまち**となることが予測されます。そのため、私たちは次世代にも「住みよいまち」を引き継ぐため、既存ストックを活用し、環境負荷が小さく少子高齢・人口減少社会に対応した都市づくりを進めていく必要があります。

また、**北陸新幹線福井開業などによる広域的な交流の促進や自然災害の頻発・激甚化、デジタル化の進展など、本市を取り巻く社会情勢も大きく変化している中で、自動車の利用に過度に依存することなく、誰もが安全・安心に暮らすことができる都市づくり、「居心地がよく歩きたくなるまち」の創出などによる多様な人々が出会い交流する都市づくりを推進していく必要があります。**

こうしたことから、今後の都市づくりにおいては、現行都市計画マスタープランに掲げていた私たち人間の行動の基本である「歩く」視点に立った都市づくりの考え方を継承し、歩くことにより生まれてくる、人、街、自然、文化との様々な出会い、地域で支えあう暮らしや風習を大切にしながら、すべての人が次の世代も暮らしの**楽しさ**を実感できる都市を育んでいきます。

■都市づくりの理念

本市が今後も住みよいまちであり続けるために、過度に自動車に依存した生活から脱却し、人の行動の基本である「歩く」視点から、**人・まち・自然等を相互につなげ、暮らしの楽しさを実感できる都市づくりに取り組みます。**

暮らしの楽しさを実感できる「歩いてつながる」まち

『暮らしの**楽しさ**を実感できる「歩いて**つながる**」まち』は、誇りと愛着を育む水と緑あふれる恵まれた自然環境との調和を基本に、安全に、安心して快適に過ごせる身近な生活空間。そして、**多様な人々の新たな出会いや交流、つながり、コミュニティ**が生まれ魅力や活力を高める多様な拠点や空間。人々の行動を誘発し、誰もが自由に行動できる移動の手段。また、これらが、**つながることで**、相互に、そして相乗的に機能することで実現されます。

～暮らしの**楽しさ**を支える**4つの視点**～

活 力

つながりを創り、魅力や活力を高める多様な拠点づくり

生 活

安全・安心、快適に過ごせる身近な生活空間づくり

交 流

誰もが自由に行動し、つながることができる移動の骨格づくり

潤 い

誇りと愛着を育む水と緑の空間づくり

第2節 目指すべき都市の将来像

資 料 2

1. 将来都市像

今後の都市づくりは、変化する社会情勢を的確に捉え、これまで過度に自動車に依存した行動によって拡散してきた公共公益施設や住宅を、バス停や鉄道駅などの公共交通機関と連携した場所に誘導し、身近な地域で歩いて暮らせることを基本とした環境負荷の小さな集約型の都市構造に転換していく必要があります。

1 自然環境との共生・調和を基本とした水と緑あふれる都市

自然環境との共生・調和を都市づくりの基本として、市街地の拡散を抑制するとともに、農山漁村地域における貴重な自然と積極的に関わりを持ちながら、安全・安心の視点からも積極的に保全・活用していきます。また、市街地においても、身近にふれあえる水と緑の空間づくりにより潤いのある都市づくりを進めていきます。

2 地域を支える拠点のネットワークにより暮らしを結ぶ都市

北陸新幹線福井開業などによる広域的な交流の効果を最大限に高めるため、都市の魅力や活力を支え、にぎわいや観光、交流の拠点となる中心市街地に広域的な機能の集約を図ります。各地域においては、日常生活に必要な機能を集積する地域拠点や**地域の特性に応じた新たな拠点を形成していきます。**さらに、中心市街地と地域拠点が**各交通手段の連携によりつながり合うよう、交通幹線軸を強化するとともに、地域拠点とその周辺地域とをつなぐ身近な交通手段を確保します。**

■将来都市像

1 自然環境との共生・調和を基本とした水と緑あふれる都市

- 市街地の拡散抑制と緑豊かな潤い空間の確保
- 農山漁村地域の自然環境の保全と活用

2 地域を支える拠点のネットワークにより暮らしを結ぶ都市

- 中心市街地のさらなる魅力・活力の向上、にぎわい・交流の創出
- 日常生活に必要な機能を集積する地域拠点などの形成
- 交通幹線軸の機能強化と、**周辺地域をつなぐ身近な交通手段の確保**